



令和元年にスタートした沼田市役所跡地活用事業は、令和2年3月、ルートインジャパン(株)の永井泰樹氏と沼田市長横山公一の署名がされた沼田市との「基本協定書」に署名調印がされ、その実現に向けた双方の努力が、今実を結ぼうとしています。

### 「沼田市ファシリティマネジメント施策に関する民間提案制度」復習

**考察** 2019年5月に公表、8月末の締め切り4件の提案があった。9月の事業者プレゼンテーションや選定作業を経て、ルートインジャパン案を協議対象案件に選定した。

ルートインジャパン案の選定理由を「地域経済への影響が多大であることに加え、市への財政貢献も高いため」とした。

他に、自由な提案を受け付けるテーマフリー型もあり、そちらには3件の応募があった。

エネリンク(名古屋市)のエネルギーサービスプロバイダー事業、NTTスマイルエナジー(大阪市)の公共施設太陽光無償設置プロジェクト事業を協議対象案件に採用、柿崎デザインスタジオ(沼田市)のテラス沼田デジタルサインエナジー事業を継続協議案件とした。



部屋数約240室、駐車場スペースは約90台、南北に長く敷地の中央に建物を配置するのは、日照への配慮と推察されます。

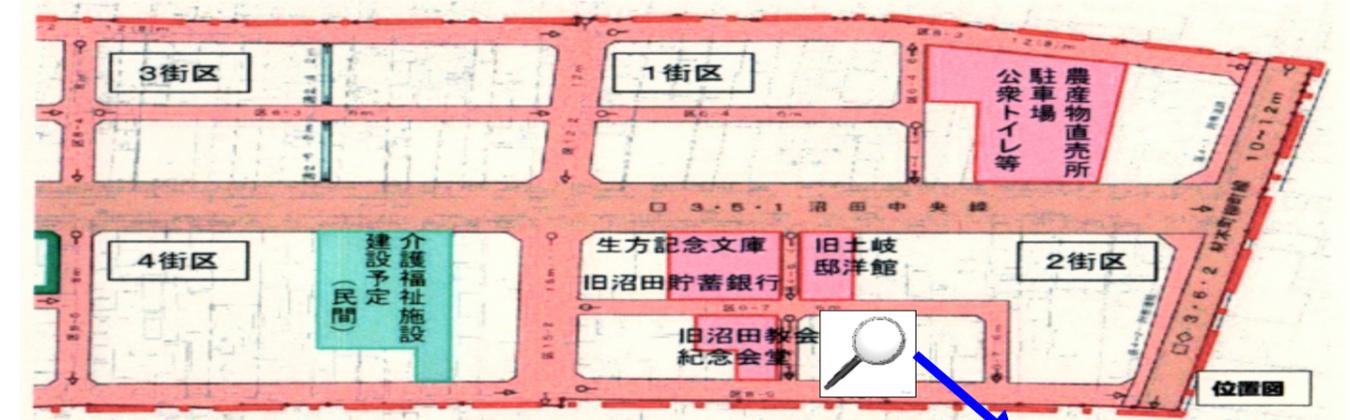
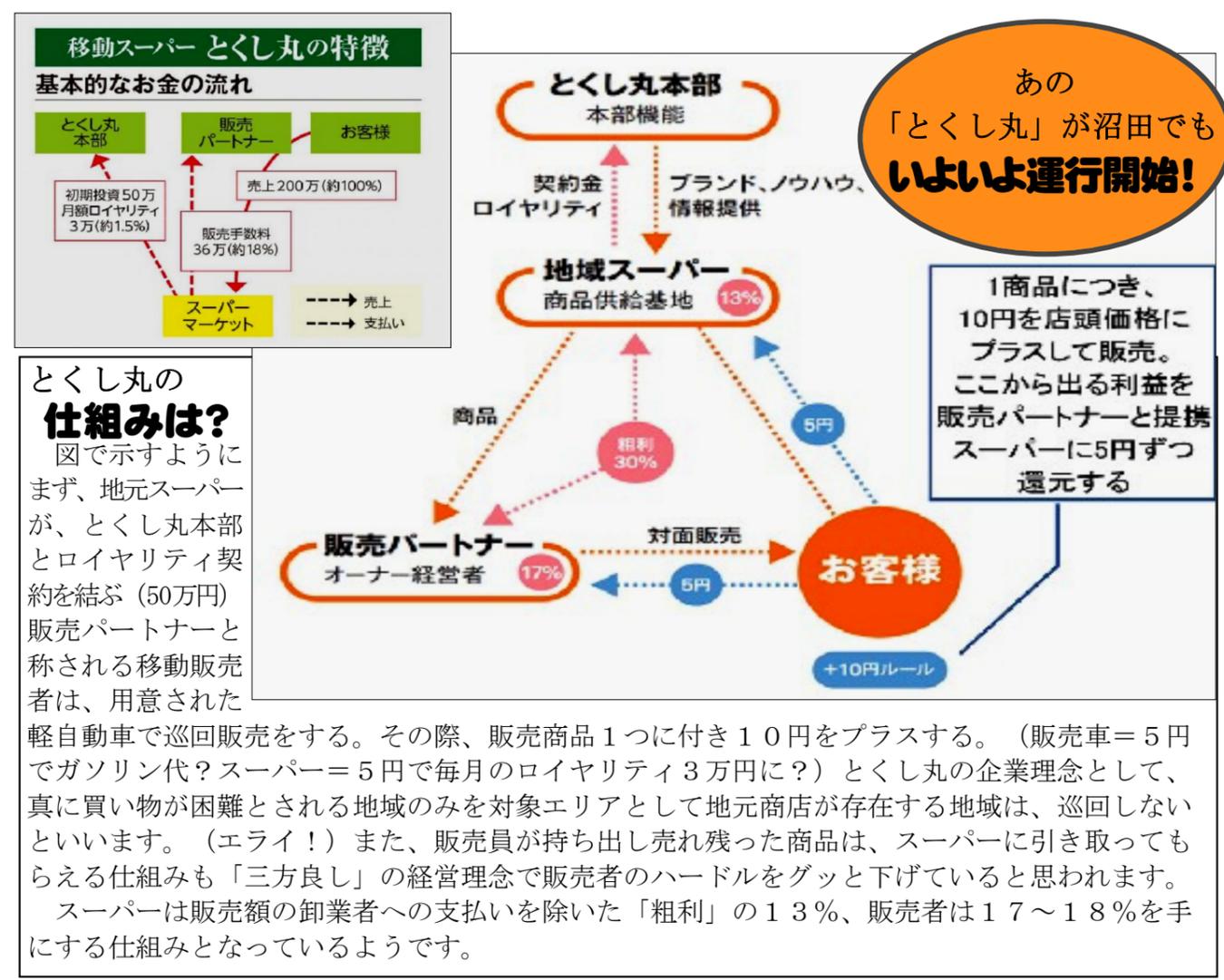
ホテルルートインがこれまで「主流」としてきた「郊外型」でなく「街なか」での営業は、沼田市の公募提案条件の要素と合致します。

インター付近での宿泊利用ではなく、市内の活性化の1つの核となることを強く望みます。

夕食を提供しないとする営業方式も相まって、その経済効果は年間30億円を超えるとされています。

ホームページの情報では、雇用では正社員3~5人、非正規社員約50人が見込まれ、提供する朝食の食材は、地元産を多用するとも紹介されています。

温泉ではありませんが、最上階には大浴場が設置されるのも、このホテルの特徴です。



**大正ロマンとは西洋建築の新しい時代の流れが日本に!**

旧久米邸洋館が沼田市に移築されることを記念して「大正ロマン キックオフイベント」に参加してきました。

パネルディスカッションでは、久米家とも縁のある紀州徳川家19代当主の徳川宜子様から、「建築物を剥製のように保存するのではなく、その時代のそこに暮らしや生活があったように、それを再現するような活かし方をして欲しい。」と語られました。

前日経アーキテクチュア編集長の宮澤洋氏は、「5つの建物の中心からの風情が楽しめるような、街なかにしたなら、珍しいしおもしろい。」と表されました。

旧市役所通りにはルートインが、そして本町通には、テラス沼田と上之町一帯の大正ロマンが新しい風を吹かす可能性を感じました。

